

長谷川誠子

10月例会 議事録

日時： 令和4年10月6日(木) 14:00～15:40 9月より開始時間を14時に変更しています。

場所： 川本本店 茶論[縁](さろん「えん」)

出席者9名 川本 阪田 阪田 笹嶋 杉田 鈴木 長谷川 牧 吉田

- 1 10/4(火)に尼崎散策を実施しました。参加者16名。企画・案内をしてくださいました牧、長谷川さんに感謝いたします。2～3ページに当日の記事を掲載しています。
- 2 11月25日(金)に宇治周辺を散策、萬福寺で普茶料理をいただきます。参加予定者 河村 阪田 阪田 笹嶋 杉田 鈴木 中村 南野 牧 松岡 吉田 吉田 南野友人 牧友人 パソコン6名 計20名 企画担当牧、南野さん 会計笹嶋さん 集合 JR 茨木 9時45分 会費 6,100円
- 3 忘年会を12月9日(金)に実施します。企画担当吉田、牧さん。淀屋橋の「かき広」プラス御堂筋彫刻鑑賞。彫刻解説は吉田さん。彫刻鑑賞のみでもOK。4～5ページに案内記事を掲載しています。申し込み締め切りは10月31日(月)
- 4 今後の例会 11/3(木・祝日) 12/1(木) 1月なし 2月なし 令和5年3月2日(木)
- 5 来年の散策予定 お花見4月行先近江八幡 芦屋散策5月
綿業会館来年3月(予定) 石山寺来年11月(予定)
- 6 9月にテレビ大阪7チャンネルでドラマ「名建築で昼食を」が放映された。ロケ地 綿業会館 日本銀行 中央公会堂 ガスビルなど。
- 7 茨木市広報10月号に川本宅が紹介されている。



以上

145 年の時を経て、尼崎城再建

尼崎は城下町だった

実施日 2022 年 10 月 4 日(火)

参加者 街ing10 名 川本 阪田 杉田 鈴木 清野 中村 長谷川 牧 吉田 吉田 パソコン 6 名 計 16 名
江戸時代、「一国一城(1615 年)」とはいいいながら、あの大坂城の他に、摂津の国には尼崎城と高槻城の 2 城がありました。徳川政権にとって、古来水陸交通の要衝だった尼崎と高槻は戦略的に特別な存在なのでした。

今回の散策は阪神電車尼崎周辺を訪ね、再建された尼崎城、貯金箱博物館、寺町を回りました。昼食は都ホテル尼崎、地上 100 メートルのレストランで「四季彩弁当」いただきました。企画、案内をしてくださいました長谷川さんと牧さんに厚くお礼申し上げます。



城内のガイド女性です。
下の集合写真も撮って
いただきました。



城内の人文字ス
ポットです。



尼崎城。写真の構図が抜群
ですね。
4 重天守、地上 5 階建てです。
4 重は外観で数えます。
5 階建ては床の数なので、外
観からは分かりません。
五重の塔には、床がないので
1 階建てになるとの説明が牧
さんからありました。なるほ
ど。

世界の貯金箱博物館です。
日本はもちろん世界 62 か国の貯金箱 24,000 点を収蔵してあります。

お手伝いや肩たたきをしてもらったおだちんを小さな貯金箱に入れる時、私たちがためていたものは、お金以上に大切なものだったのかもしれない。



寺町です。
1617 年に尼崎城の建設にあたって、散在していた寺院を城の西にあたる場所に集め寺町がつけられました。11 のお寺が集中しています。

寺町を案内していただいたガイドさんです。
各お寺の由緒、歴史を分かりやすく解説していただきました。



御堂筋“彫刻ストリート”散策と大阪最後のかき船“かき広”の夕べ！ 令和4年12月9日(金)

梅田（北）から難波（南）を結ぶ全長約4km・幅員44mの端正な並木道＜御堂筋＞。100年先の大阪の発展を見据えて、昭和12年（1937年）に開通する。

当初より電線を全て地下に配し、約800本の銀杏並木を整え、周辺ビルのスカイラインも31m（100尺）以内に制限した美しい街路を保ち、かつての“大大阪”を偲ぶ縁として、今なお内外の大いなる注目を集めている。

現在は、ビルのスカイラインは50mに緩和され、区画内には商業施設やオフィスビルなどが整然と立ち並び、11月から12月に掛けては、夜間のイルミネーションが無機質なコンクリート・ジャングルに彩りを添えている。

特にミナミ近辺では、すぐ東側に心斎橋筋・戎橋筋といった繁華街が南北に並行して走り、東西には碁盤の目のようなオフィス街や、南船場・アメリカ村などのファッション街が交差して、商都・大阪の活気に溢れている。

大阪市は「御堂筋将来ビジョン」を2019年に策定し、100周年（2038年）を目標とした御堂筋フルモル化が示され、側道の閉鎖から段階的に進めてゆき、2025年の大阪・関西万博までに側道の全面歩行者空間化を目指すことが位置付けられている。

また、近年では御堂筋沿道に、ヘンリー・ムーア、オーギュスト・ロダンや高村光太郎などの内外著名作家による彫像29体が飾られ、この“彫刻ストリート構想”は道行く好事家たちの目を愉しませている。

＜昼の部＞ 15時～17時30分

商都・大阪のシンボル＜御堂筋＞を淀屋橋から大阪ガスビルまで、沿道の野外美術館“御堂筋彫刻ストリート”を散策しながら、心の赴くまま街並み探索（タウン・ウォッチング）しようではないか！？

御堂筋彫刻解説：吉田 恭三（会員）



＜夜の部＞ 17時30分～20時

「かき広」 創業大正9年 大阪で唯一最後のかき船
大阪市中央区北浜3丁目1-25（淀屋橋のたもと）

☎06-6231-1891

食事代7,200円（税、サービス料込）飲料は個人負担
かき料理専門店ならではの料理をお楽しみ下さい。
四季折々の旬の料理もご用意しております。
（HPより）



○参集地：阪急「茨木市」駅改札口付近 14時（時間厳守）

○順 路：茨木市⇒南方／西中島南方⇒淀屋橋～御堂筋彫刻ストリート～大阪ガスビル～御堂筋彫刻ストリート～かき広～御堂筋（イルミネーション）～JR大阪・阪急梅田（解散）

○定 員：10名（夜の部） 昼の部（御堂筋彫刻ストリート）のみの参加歓迎

○申込先：「街ing いばらき」代表・阪田 浩（080-1436-9881）申込締め切り10月31日（月）

Tel&Fax／072-627-3480 E-mail／ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※本会行事は、自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己責任でご対応ください。

かき船

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

昭和初期。広島市公文書館所蔵の絵葉書より。

かき船(かきふね、牡蛎船・牡蠣船・カキ船とも)は、川辺に係留した和船でカキ料理を食べさせる飲食店

概要

1660年代に、安芸国草津から大阪までの、小西屋五郎八のカキ売りの船が起源とされている。当時は、草津・仁保・矢野の港を晩秋に出港。

大阪の各港で生がきを販売。翌年の1月から2月頃(旧暦)に広島に帰っていた。

1707年(宝永4年)の大阪での火事の際に、高麗橋下の幕府の高札を守ったことで、草津の業者は大坂町奉行より事業の特権が与えられ、株仲間制度の下、草津・仁保出身者が事業を独占することになった。

船内でのかき料理の提供は1810年代より始まった。1832年(天保3年)のメニューとして、カキ飯・カキの土手鍋・酢ガキ・カキの吸い物・からまぶし(カキとおからの和え物)などが記録に残されている。

明治以降、草津の業者に加え、矢野や海田の業者もかき船に参入。1882年(明治15年)時点で77隻、昭和初期で150隻以上、かき船の数を数えた。標準的なカキ船で、板前・仲居・出前持ちなど10人前後の従業員で営業していたとされている。また、明治以降はカキフライなども出されるようになった。また付け合わせとして広島菜漬も出された。

広島市内でも、第二次世界大戦のまえから元安川や、本川で営業していた。

明治以降、東京でもかき船が登場。大阪の物とは異なり、食材のみを広島から仕入れる形態になった。カキの輸送手段も大正時代には汽船を、昭和時代にはむぎ身を汽車で運ぶように変化していった。

第二次世界大戦後、陸上に店を構える店舗に転換するなどして数を急激に減らしている。

2014年現在、広島県広島市元安川に2隻(かなわ・ひろしま)、広島県呉市堺川に1隻(味の居酒屋かき船)、大阪府大阪市旧淀川に1隻(かき広)、長野県松本市松本城の堀に1隻(かき船)がある。



日本経済新聞(夕刊)2021年(令和3年)12月21日(火曜日)

大阪・淀屋橋川に浮かぶ老舗料理店

「かき船」の風流、江戸期から

かつて市内24隻、戦後激減

大阪中心部の淀屋橋。駅の出口を出てすぐ、目に付くのが、川の上に浮かぶ老舗料理店だ。看板には「かき うなぎ ふぐ」と書かれ、かき料理を船の上で提供している。以前は多くの船が市内に浮かんでいたが、今に残るのは同店だけ。今年もかきのシーズンが到来し、開業して100年以上がたつ同店にもかきを目当てにお客さんが訪れている。

店名は「かき船」。3代目店主の吉見三夫さん(69)によると、橋の建設工事や第二次大戦中などを除いて、1920年の開業以来、ずっと淀屋橋の南詰で営業を続けている。

かき料理を出す船上の料理店を「かき船」と呼び、かき広は大阪に浮かぶ最後の1隻だ。今では人手の問題などで1日数人の予約のお客さんに限って営業している。吉見さんは「バブルの時は宴会などのお客さんが多く訪れて毎日3回転していた。冬はかき料理を提供し、それ以外の時期は予約があれば懐石料理を出している。かき料理はコースで5000円(税別)から。コースは前菜のかきの酢の物や酒蒸し、白味噌仕立てのかき鍋、かきご飯まで、2つに分かれており、入り口側には川底に固定された建物の中に調理場やカウンター席がある。お客さんが飲食する座敷は船の上であり、川面が見える小さな橋で建物とつながっている。

吉見さんは「昔は大阪中にかき船が浮かんでいたんです。地図によると41年には大阪市内に24隻のかき船が浮かんでいた。広島のかき振る舞い、特に中之島から天満橋にかけての堂島川や土佐堀川や難波堀川に多かった。

広島市郷土資料館によると、かき船の歴史は江戸時代の元禄期に遡る。かきの養殖が発達した広島市周辺の地域で、販売先を開拓するために船で売りに出たようだ。特にかきの養殖が盛んだった草津(現在の広島市西区、仁保(同南区)、矢野(同安芸区))などから多くの船が出た。当初は船でかきを運び販売するだけだったが、江戸後期には船料理を提供するようになった。1832年(天保3年)に富山の僧侶が記録した資料では、大阪のかき船でかきとセリの鍋やかき飯、かきの土手鍋など8品のかき料理を食べたとある。

広島市の資料では80年代に県内に17隻のかき船が確認されている。国内では東は金沢から西は小倉(福岡県)まで営業しており、特に「天下の台所」として一大消費地だった大阪は江戸時代から多かった。

関西学院大学の島村基則教授は「消費者には船の上で食べるという行為が風流だと歓迎された。東京・国田川の屋形船に似ている」と話す。

戦後、河川の改修やかきを扱う料理店が増えたことで、かき船は数を減らしていった。島村教授によると、現存するかき船は全国でかき広を含めて4隻。広島市の「かなわ」「広島県呉市の「かき船」、長野県松本市の「かき船」が営業を続けている。

かき船の経営者が店を陸上に移すなど、かき船がルーツのかき料理店は全国に多い。関西では阪神電気鉄道駅前の「かき金」(兵庫県尼崎市の「かき峰」は「船大」だった創業者が、池田の猪川に船を浮かべようとしたが許可がおりず、1924年に船の材料を使って池田駅前に開業した(同店)という。

かき広は土佐堀川の管理者である府に河川の占拠を支持して営業を続けている。船体は繊維強化プラスチック(FRP)に変更している。座敷の畳なども2018年の台風による被害を機に一新した。吉見さんは「体が持つ限りは頑張りたい」と意気込み。(金岡記)



急ピッチで進む西河原西交差点の高架工事

杉田 宗三

昨年の8月号にも記しました国道171号線と府道46号線（茨木・亀岡線）が交わる西河原西交差点の高架工事が今、急ピッチで工事が進められています。

開通は来年3月までの予定です。

この立体交差が開通すると茨木市中心部から貯水が始まった安威川ダムや整備が進められている安威川ダム周辺の公園へのアクセスが楽になり、また既に通している府道大岩線を経て新名神高速道路の茨木千提寺ICまでの時間が大幅に短縮されます。

以下に現状を写真で紹介します。





「楓」は中国伝来時に漢字の取り違い

杉田 宗三

中国ではカエデは「槭」と書き、「楓」はマンサク科のフウを指すそうです。ともに江戸時代、享保年間の 1721 年に日本にもたらされた中国原産の落葉樹です。

トウカエデはムクロジ科でフウとは科も異なり、トウカエデは葉が対生（2 枚が向き合って枝につく）、フウは互生（1 枚ずつ互い違いに枝につく）と違いがありますが、一見よく似ています。ともに浅く三つに裂けた葉を付けて紅葉がきれいで、整った樹形も似ています。

江戸の人々は、同時期に日本に来た 2 種の木の漢字を取り違えてしまい、そのまま今に続いているそうです。

（※納豆と豆腐の取り違いと同じですね！）

トウカエデの漢字は日本語では「唐楓」ですが、中国名は「三角槭」となります。三角は葉の形を表しています。夏の暑さや乾燥に強く街路樹としても良く植えられています。

カエデの仲間は、イロハモミジなど日本に約 20 種。カエデの語源は

「蛙手（かえるで）」で、葉の裂けた形が^{てのひら}掌を思わせることからきています。モミジとも呼びますが、これは葉が色づくことを表す「もみづ」という古語に由来し、美しい紅葉の代表格としてカエデ類を指すようになったものです。ちなみにモミジと読む国字（日本で作られた漢字）もあり、「栌」と書きますが、今では殆ど使われていません。

<街路樹からのヘリコプター>

トウカエデの花は晩春、若葉を広げた枝先に、雄花と雌花が交じって咲きます。緑色で小さく目立ちませんが、雌花はプロペラ翼をつけた二個セットの実に育ちます。秋に熟すると実是一个ずつに分かれ、高速回転しながら風に乗ってヘリコプターのように飛びます。きれいな紅葉にプロペラの実、探してみてください。

（注 理学博士 多田多恵子氏のエッセイより抜粋）

果実は翼果（よくか）といわれる、果皮の端が伸びてできた膜状の翼があり、風に乗って飛散する寒暖の差が激しい地域では、黄色から朱色、紅色と少しずつ変化していくので、色の移り変わりをリアルに感じることができますね。



次回のイベント

宇治界限散策 11月25日(金) 集合場所 JR 茨木スカイパレット 集合時間 9時45分

次回『街ing いばらき』例会のご案内

日時: 11月3日(木・祝日) 14:00～16:00 9月より14時開始に変更しています

場所: 川本本店 茶論「縁」(サロン「えん」)

住所: 茨木市上泉町6-29 TEL: 072-624-5552

内容: 1. 11月25日(金)の紅葉狩り

2. 12月9日(金)の忘年会

3. 来年の予定 他

『街ing いばらき』とは?

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年3回程度の街歩きを行なっています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000円 会費 年間 2,000円(一か月 170円)



《 編集後記 》

- 尼崎散策が無事に終了しました。引き続き11月宇治、12月の忘年会を計画しています。魅力のアップした街歩きを楽しみましょう。
- 尼崎散策では、都ホテルの昼食も高評価でした。「昼食をちょっと贅沢に」路線も楽しいですね。
- 一昨年はカキ料理、昨年はふぐ料理とパナソニックリゾートでの忘年会が続きました。今年はカキ料理を淀屋橋で計画しました。御堂筋に設置されている1億円ともいわれる彫刻の解説もあります。カキ料理の苦手の方は彫刻鑑賞だけの参加もOKです。ご参加をお待ちしています。

《 編集・発行 》

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ing ホームページ : <http://www.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2022年10月現在での訪問者は9,740<前月比32の増加>となっています。

